

2026年3月期 決算説明資料

株式会社高松コンストラクショングループ
証券コード：1762
2026年5月13日

つながる力を、創り出すかに。



1. 2026年3月期 決算	2
2. 2027年3月期 業績予想・配当予想	22
3. トピックス	27

2026年3月期 決算

企業集団の状況

土木	建築	不動産	主要営業エリア
	高松建設		東京・大阪・名古屋
	高松テクノサービス		大阪・東京
		高松エステート	大阪・東京
	住之江工芸		国内（全国）
	金剛組		大阪・東京
	中村社寺		名古屋
	タカマツビルド		東京・神奈川
	大昭工業		大阪
青木あすなる建設			国内（全国）
島田組			国内（全国）
みらい建設工業			国内（全国）
青木マリーン			国内（全国）
	エムズ		首都圏
東興ジオテック			国内（全国）
		タカマツハウス	東京・神奈川・埼玉
		タカマツハウス不動産	東京・神奈川
		タカマツハウス関西	大阪・兵庫
		高松都市開発	東京・大阪
		高松CG USA	米国
高松コンストラクショングループ（純粋持株会社）			

2026年3月期 業績推移

◆ 全ての項目で前期比増となり、親会社株主帰属当期純利益は114億円と大幅に増加。受注高、売上高、営業利益、経常利益は過去最高を更新。 (億円)

項目	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期	増減率
受注高	3,376	3,259	3,913	↑ 4,360	+11.4%
売上高	2,824	3,126	3,466	↑ 3,576	+3.2%
売上総利益	420	430	446	↑ 551	+23.7%
売上総利益率	14.9%	13.8%	12.9%	↑ 15.4%	+2.5pt
営業利益	120	116	114	↑ 178	+56.2%
営業利益率	4.3%	3.7%	3.3%	↑ 5.0%	+1.7pt
経常利益	117	113	106	↑ 175	+64.9%
経常利益率	4.2%	3.6%	3.1%	↑ 4.9%	+1.8pt
親会社株主帰属 当期純利益	75	91	64	↑ 114	+77.1%
当期純利益率	2.7%	2.9%	1.9%	↑ 3.2%	+1.3pt

2026年3月期配当および2027年3月期配当予想（配当額・配当性向）

- ◆ 2026年3月期は連結純利益が114億円と2025年5月14日に公表した見通しの78億円を上回ったことを踏まえ、2026年3月期の1株当たり年間配当金を、公表した見通しの90円から40円増額となる130円とした。
- ◆ 2027年3月期の配当金額は、2027年3月期の連結純利益の見通しを中期経営計画で掲げた100億円から125億円へと上方修正したことから、1株当たり144円、配当性向40.1%を予定。

2026年 3月期	見通し	実績	増配額
	90円	▶ 130円	+40円
2027年 3月期	見通し	配当性向	
	144円	40.1%	

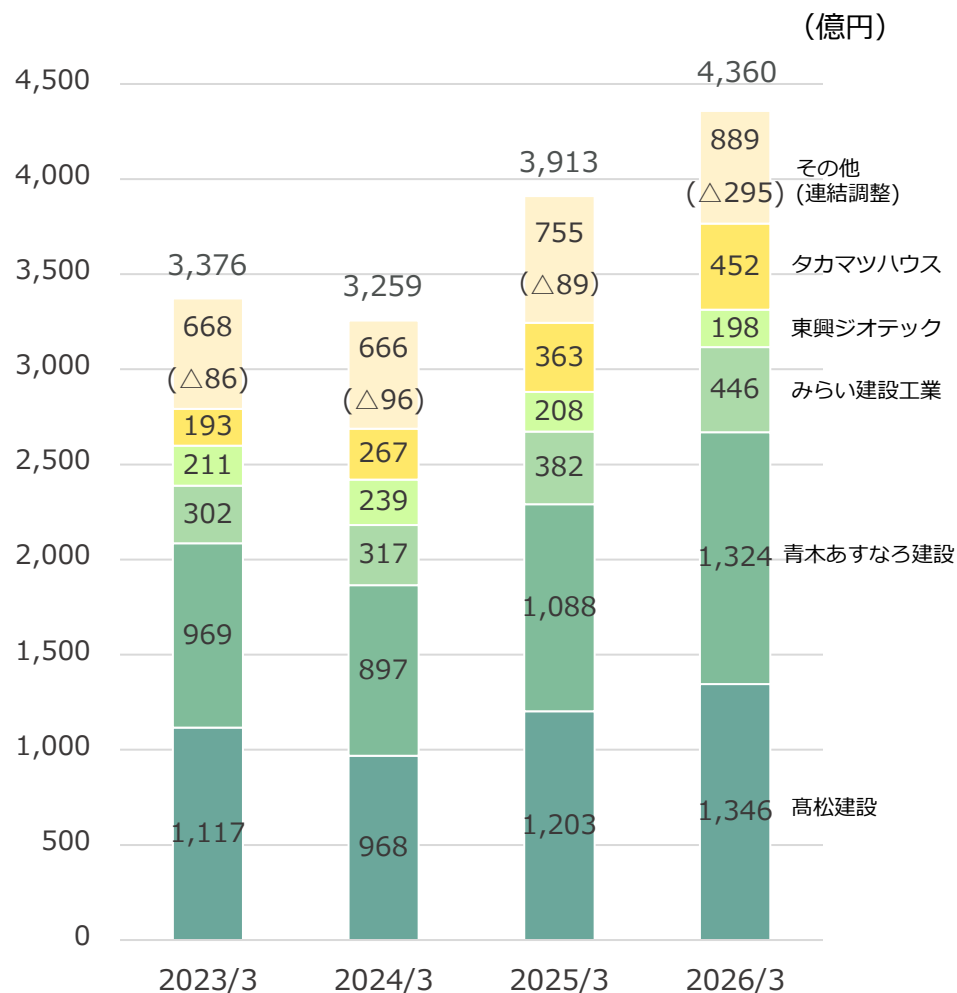
2026年3月期 業績のポイント

2026年3月期 業績	受注高	受注高は前期比+11.4%。 建築+6.9%、土木+20.9%、不動産+11.7%と、すべてのセグメントで増加。 建築は、青木あすなる建設におけるデータセンター、物流施設等の大型工事の受注が寄与した。土木は、青木あすなる建設が官庁工事を着実に受注し、また、みらい建設工業において民間陸上工事の受注が伸長したことも要因となった。不動産は、タカマツハウスにおける東京23区の建売住宅の需要が強く、受注をけん引した。
	売上高	売上高は前期比+3.2%。 建築+6.0%、土木△0.7%、不動産+2.3%。 土木は、発注者都合による着工遅延を当期受注当期完工工事で補完するも、前期比微減の着地。
	営業利益	営業利益は前期比+56.2%と大幅増。 建築+229.9%、土木+10.8%、不動産△15.4%と、建築が大幅にけん引。建築は、高松建設の売上増と選別受注および追加工事の獲得による売上総利益率の改善、前期に営業赤字だった青木あすなる建設が復調したことによる反動増の影響が大きい。
株主還元		親会社株主帰属当期純利益は、期初計画の78億円から114億円に増加。配当は当初予想の1株当たり90円から40円増配し、1株当たり130円。

中核事業会社別 受注高

◆ 高松建設は前期比+11.9%と増加（詳細次ページ）。青木あすなる建設はデータセンターや物流倉庫等の大型案件受注があり前期比+21.6%と大幅増。みらい建設工業は大型案件を複数受注し前期比+16.5%と増加。東興ジオテックは前期比△5.2%。タカマツハウスは販売好調により前期比+24.4%と大幅増。その他中核5社以外のグループ会社は主に高松テクノサービス、高松エステートで増加し前期比+17.7%。連結調整は第2四半期に発生した高松建設から高松都市開発への分譲事業移管を主な要因として前期比206億円増加。

会社別	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
高松建設 (単体)	111,702	96,831	120,355	134,656
青木あすなる 建設 (単体)	96,961	89,755	108,845	132,404
みらい 建設工業 (単体)	30,264	31,702	38,294	44,602
東興 ジオテック (単体)	21,188	23,988	20,887	19,808
タカマツ ハウス (単体)	19,366	26,724	36,363	45,252
その他 グループ会社	66,804	66,605	75,542	88,924
連結調整	△8,605	△9,691	△8,908	△29,548
連結合計	337,680	325,914	391,378	436,098



※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2026 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

高松建設 セグメント別受注高

- ◆ 共同住宅は、大阪で前期比92億円、東京で前期比14億円増加し、高松建設全体で前期比106億円増加した。なお、本受注高には第2四半期に計上した高松建設から高松都市開発への分譲事業移管に伴う分譲住宅のグループ間受発注が計約200億円（第2四半期で大阪約69億円、東京約131億円）含まれる。グループ会社間取引となるため、グループ連結合計受注高は連結調整による消去がなされている。
- ◆ 一般建築は、大阪で前期比38億円減少したものの、東京で前期比120億円増加し、高松建設全体では81億円の増加となった。

セグメント別 受注高

(百万円)

		大阪				東京			
		2025/3	構成比	2026/3	構成比	2025/3	構成比	2026/3	構成比
建築	共同住宅	13,447	27.4%	22,656	42.2%	38,874	54.5%	40,352	49.8%
	一般建築	32,152	65.5%	28,290	52.7%	26,329	36.9%	38,380	47.4%
不動産		3,471	7.1%	2,730	5.1%	6,082	8.5%	2,248	2.8%
合計		49,070	100%	53,676	100%	71,285	100%	80,980	100%

※数値はグループ会社間取引を含む。

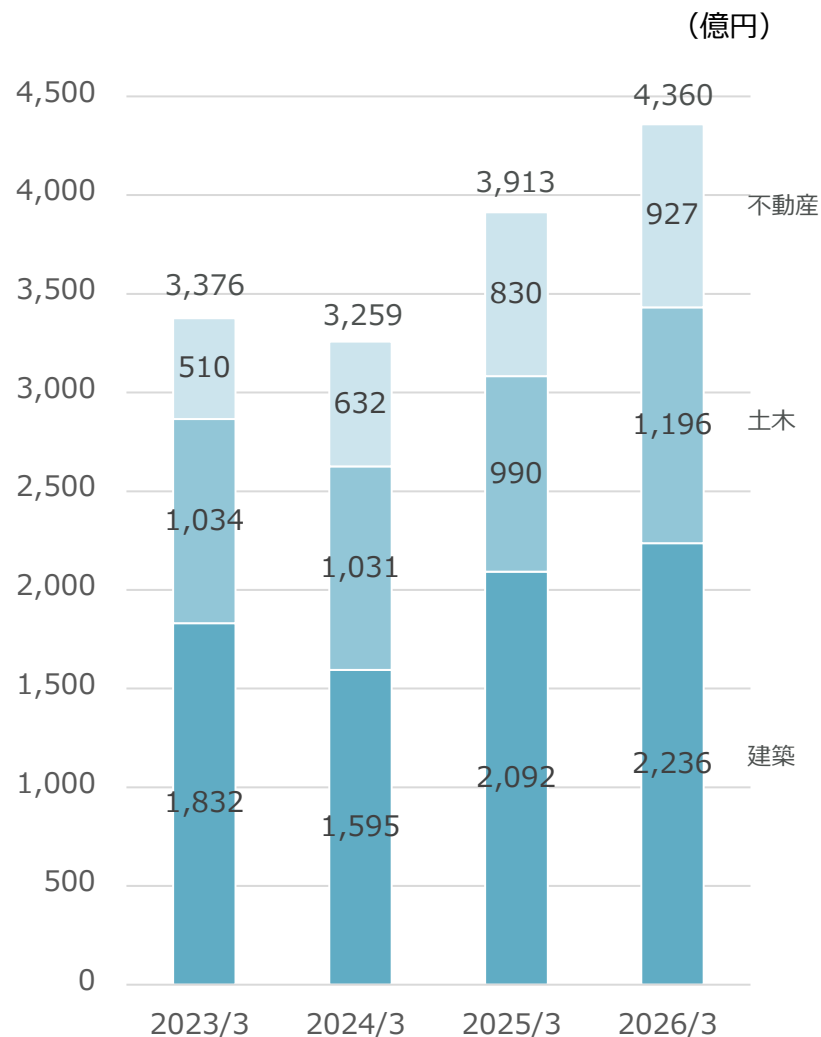
※構成比は小数点以下第二位四捨五入

セグメント別 受注高

- ◆ 建築は前期比+6.9%。土木は主に青木あすなろ建設、みらい建設工業で増加し前期比+20.9%と大幅増。不動産は主にタカマツハウス、高松エステートで増加し、前期比+11.7%と大幅増。

セグメント別	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
建築	183,241	159,570	209,298	223,648
土木	103,438	103,114	99,008	119,665
不動産	51,000	63,229	83,070	92,784
連結合計	337,680	325,914	391,378	436,098

(百万円)



中核事業会社別 次期繰越高

- ◆ 高松建設は受注高・売上高ともに増加し前期比+11.6%。青木あすなる建設は建築・土木ともに受注高が大幅に増加し、全体で前期比+23.3%と大幅増。みらい建設工業は受注高の増加により前期比+32.2%と大幅増。東興ジオテックは前期比△6.5%。タカマツハウスは受注高が大幅に増加し前期比約3倍と大幅増。その他中核5社以外のグループ会社はグループ会社は主に高松テクノサービスで増加し前期比+38.0%と大幅増。次期繰越高での連結調整は高松都市開発の設立に伴い受注高の連結調整額が増加したため前期比165億円の増加。連結合計は前期比+16.3%となった。

(百万円)

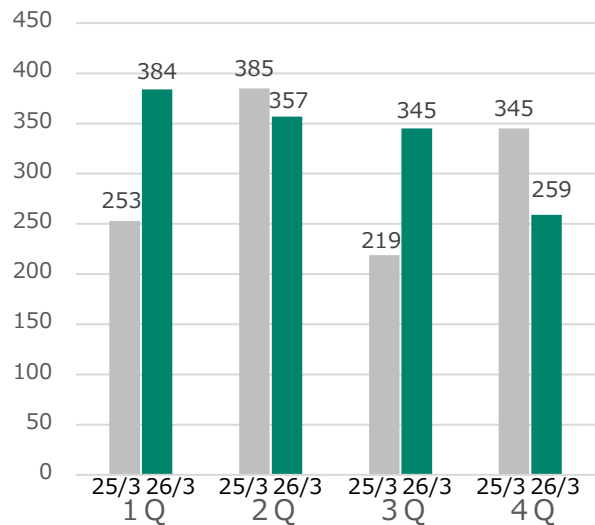
会社別	2025/3	2026/3	増減額	増減率
高松建設 (単体)	229,051	255,604	↑ 26,553	+11.6%
青木あすなる建設 (単体)	建築	116,380	↑ 34,385	+29.5%
	土木	61,329	↑ 6,996	+11.4%
	合計	177,710	219,090	↑ 41,380
みらい建設工業 (単体)	39,757	52,565	↑ 12,808	+32.2%
東興ジオテック (単体)	12,956	12,110	↓ △846	△6.5%
タカマツハウス (単体)	3,531	11,267	↑ 7,736	+219.1%
その他グループ会社	19,317	26,662	↑ 7,345	+38.0%
連結調整	△1,244	△17,798	↓ △16,554	—
連結合計	481,078	559,500	↑ 78,422	+16.3%

※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

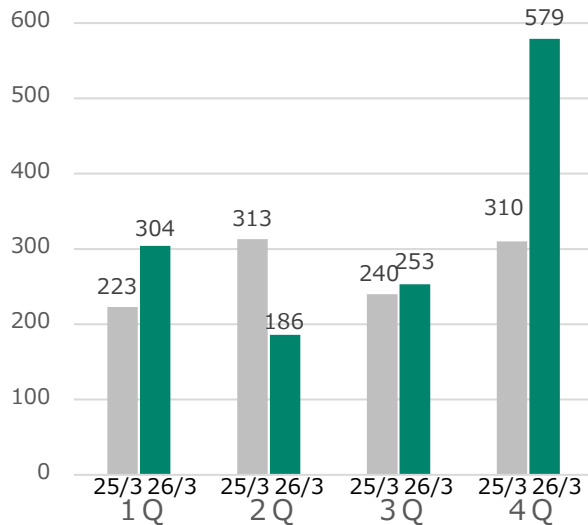
中核5社と連結合計の四半期ごとの受注高

(※ 数値は累計値ではなく四半期毎の金額)

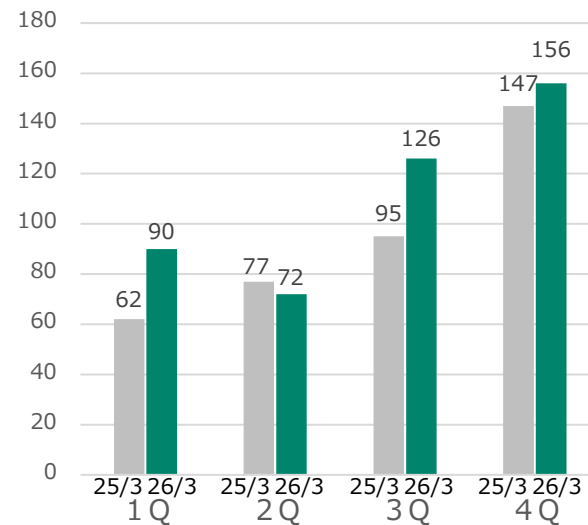
高松建設



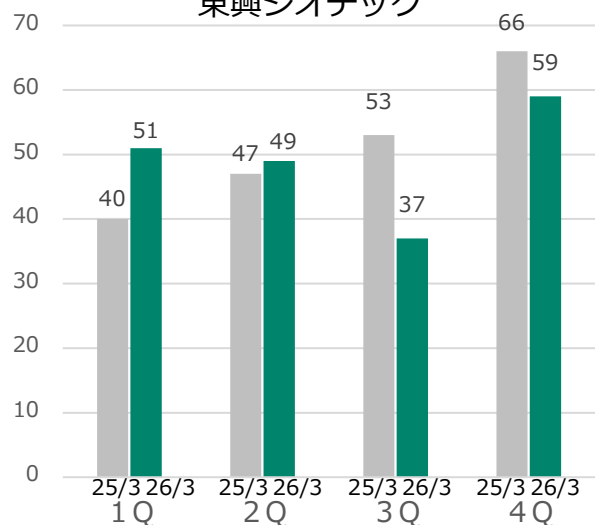
青木あすなろ建設



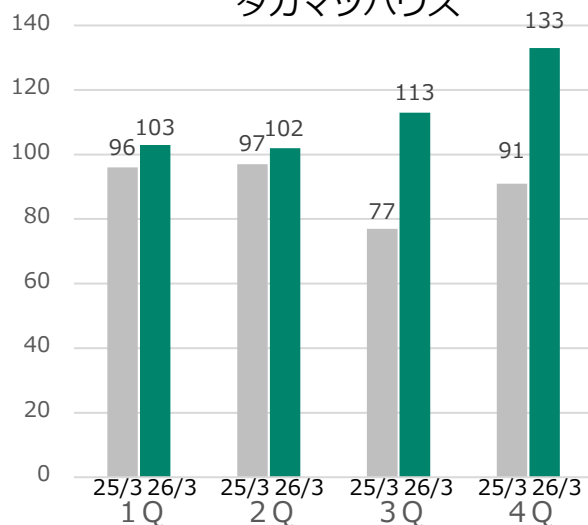
みらい建設工業 (億円)



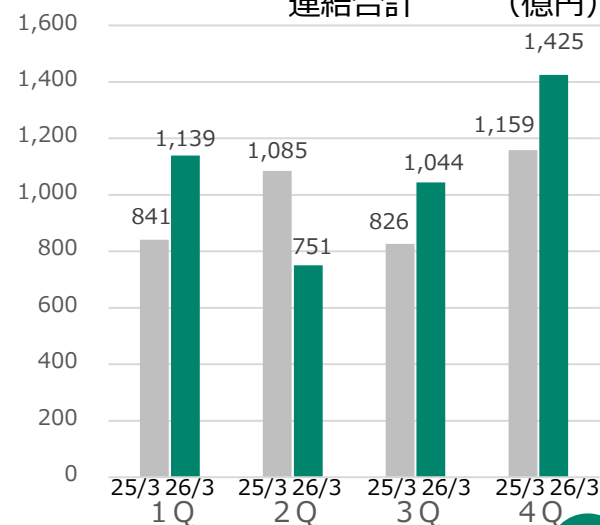
東興ジオテック



タカマツハウス



連結合計 (億円)



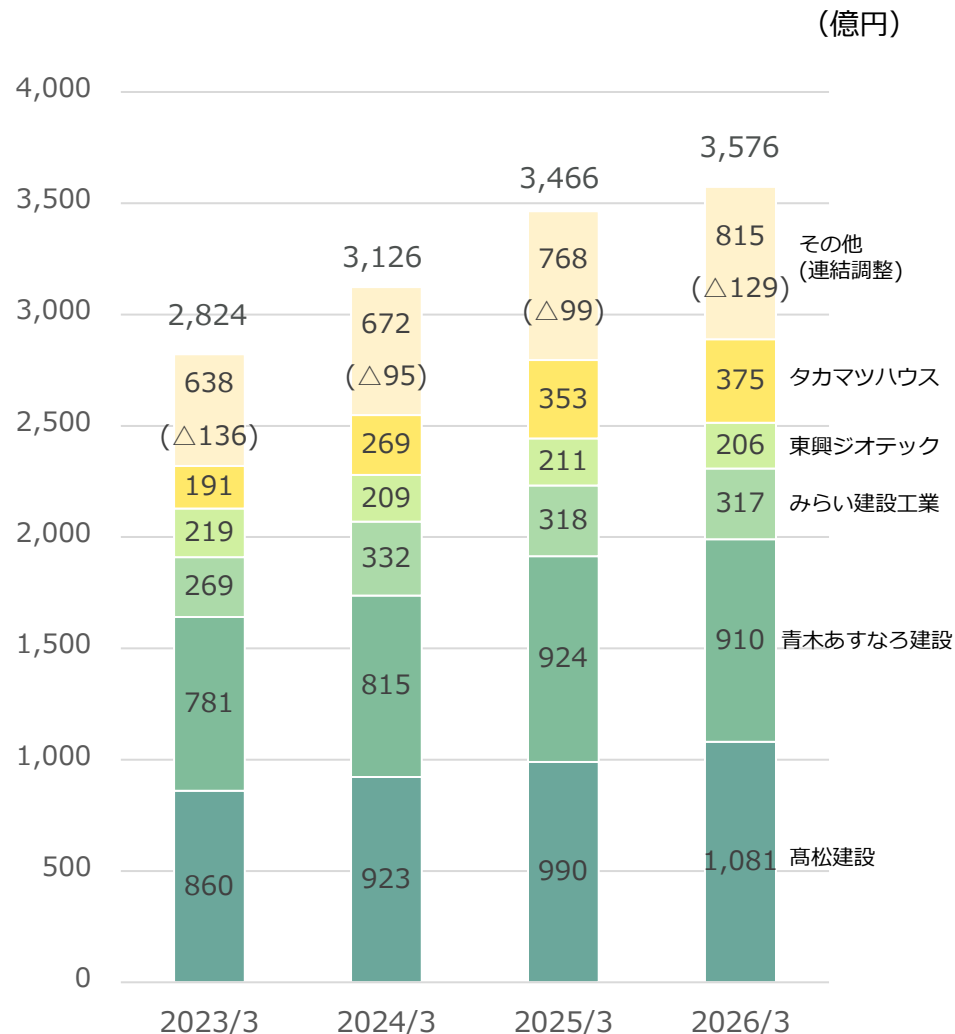
※ 個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2026 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

中核事業会社別 売上高

- ◆ 高松建設は線越工事が順調に進捗し前期比+9.1%。青木あすなる建設は前期比△1.6%。みらい建設工業は前期比△0.1%。東興ジオテックは前期比△2.2%。タカマツハウスは販売好調により前期比+6.2%。その他中核5社以外のグループ会社は前期比+6.1%。

会社別	(百万円)			
	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
高松建設 (単体)	86,056	92,336	99,090	108,103
青木あすなる建設 (単体)	78,158	81,541	92,459	91,024
みらい建設工業 (単体)	26,929	33,222	31,827	31,795
東興ジオテック (単体)	21,990	20,978	21,114	20,655
タカマツハウス (単体)	19,184	26,912	35,329	37,517
その他 グループ会社	63,810	67,229	76,849	81,575
連結調整	△13,632	△9,538	△9,983	△12,994
連結合計	282,495	312,680	346,685	357,675



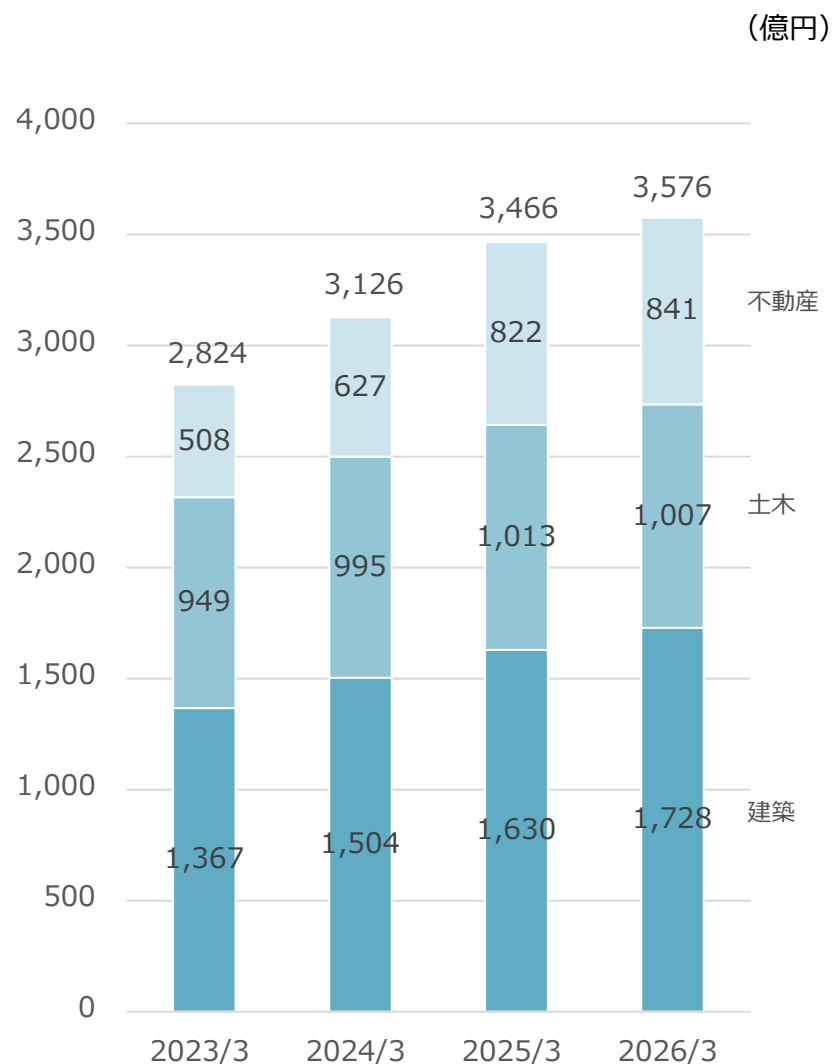
※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2026 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

セグメント別 売上高

◆ 建築は高松建設で増加し前期比+6.0%。土木は前期比△0.7%。不動産は+2.3%。

セグメント別	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
建築	136,774	150,403	163,044	172,838
土木	94,902	99,559	101,399	100,736
不動産	50,818	62,716	82,241	84,100
連結合計	282,495	312,680	346,685	357,675

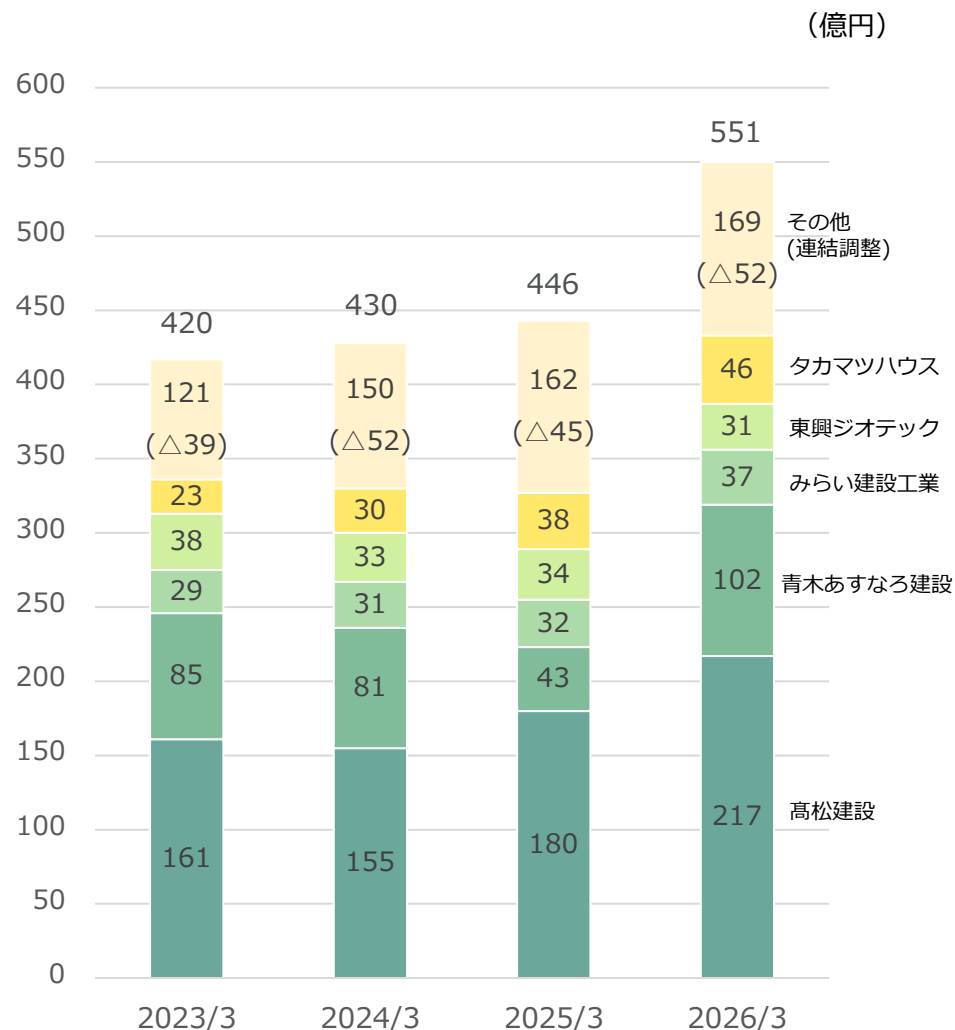


中核事業会社別 売上総利益

◆ 高松建設は選別受注による好採算工事の進捗、追加工事の獲得により前期比+20.3%と大幅増。青木あすなる建設は不採算案件のあった前期からの反動増もあり、売上高は前期比減も売上総利益は前期比2.3倍と大幅増。みらい建設工業は売上高は微減も前期比+12.4%と増加。東興ジオテックは当期に貢献する受注不足による売上高の減少で前期比△8.8%。タカマツハウスは売上高の増加と長期滞留在庫の入れ替えが進んだこともあり前期比+21.7%と大幅増。その他中核5社以外のグループ会社は前期比+4.4%。

会社別	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
高松建設 (単体)	16,169	15,509	18,065	21,740
青木あすなる 建設 (単体)	8,501	8,160	4,392	10,251
みらい 建設工業 (単体)	2,967	3,186	3,297	3,705
東興 ジオテック (単体)	3,844	3,369	3,410	3,110
タカマツ ハウス (単体)	2,389	3,026	3,844	4,678
その他 グループ会社	12,122	15,050	16,211	16,919
連結調整	△3,970	△5,248	△4,593	△5,207
連結合計	42,022	43,052	44,626	55,196

(百万円)



※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

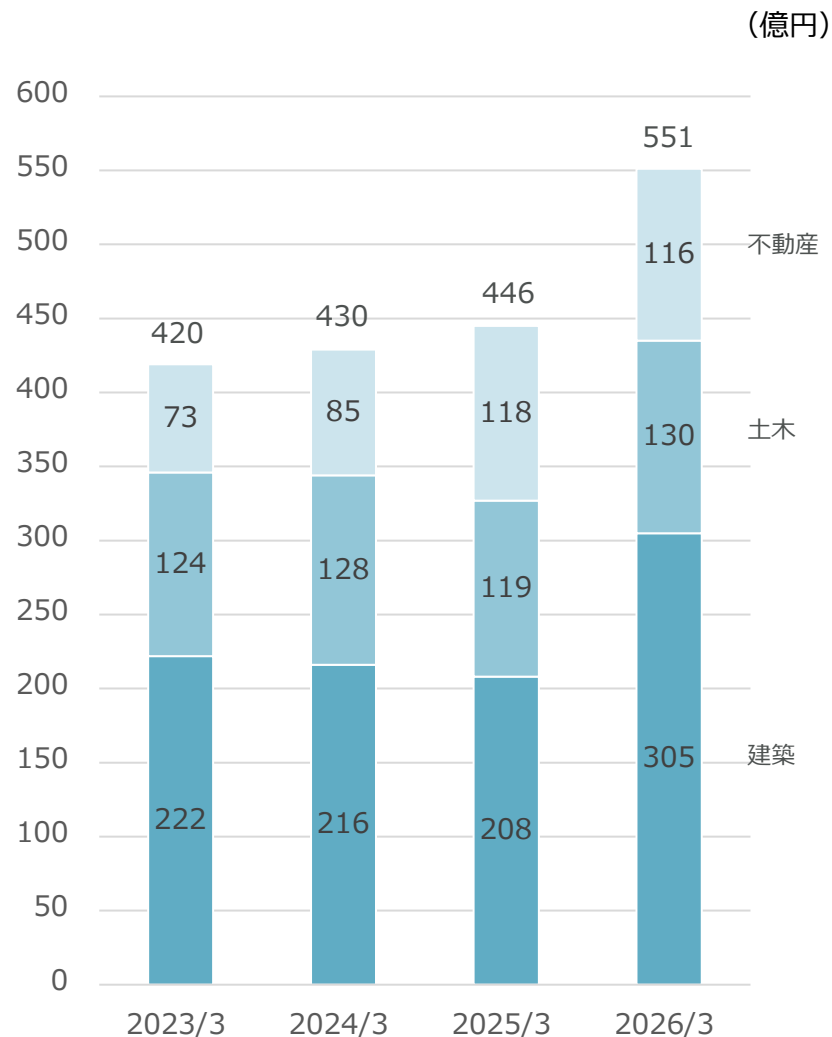
©2026 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

セグメント別 売上総利益

- ◆ 建築は高松建設、青木あすなろ建設で増加し前期比+46.8%と大幅増。土木は青木あすなろ建設、みらい建設工業で増加し前期比+8.5%と増加。不動産は前期比△1.6%。

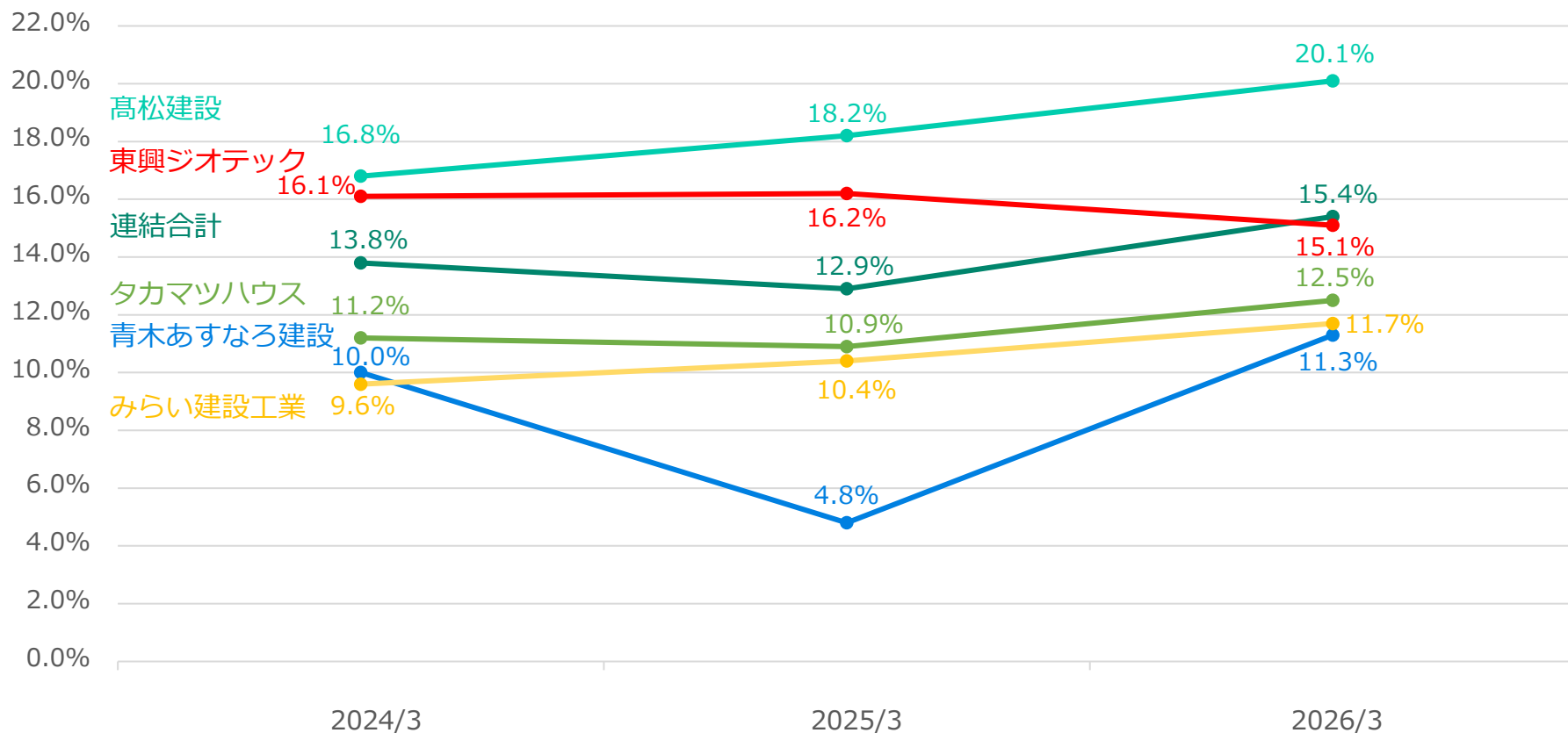
(百万円)

セグメント別	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
建築	22,232	21,614	20,800	30,542
土木	12,488	12,884	11,998	13,021
不動産	7,301	8,552	11,827	11,632
連結合計	42,022	43,052	44,626	55,196



連結合計と中核5社の売上総利益率

- ◆ 高松建設は売上高および売上総利益額の増加により前期比+1.9ptと大幅に上昇。
- ◆ 青木あすなろ建設は売上高は減少したものの前期からの反動増もあり売上総利益額が増加し前期比+6.5ptと大幅に上昇。
- ◆ みらい建設工業は売上高は微減も売上総利益額は増加し前期比+1.3ptと上昇。
- ◆ 東興ジオテックは売上高および売上総利益額の減少により前期比△1.1ptと低下。
- ◆ タカマツハウスは売上高と売上総利益額が増加し前期比+1.6ptと大幅に上昇。
- ◆ 連結合計で前期比+2.5ptと大幅に上昇した。

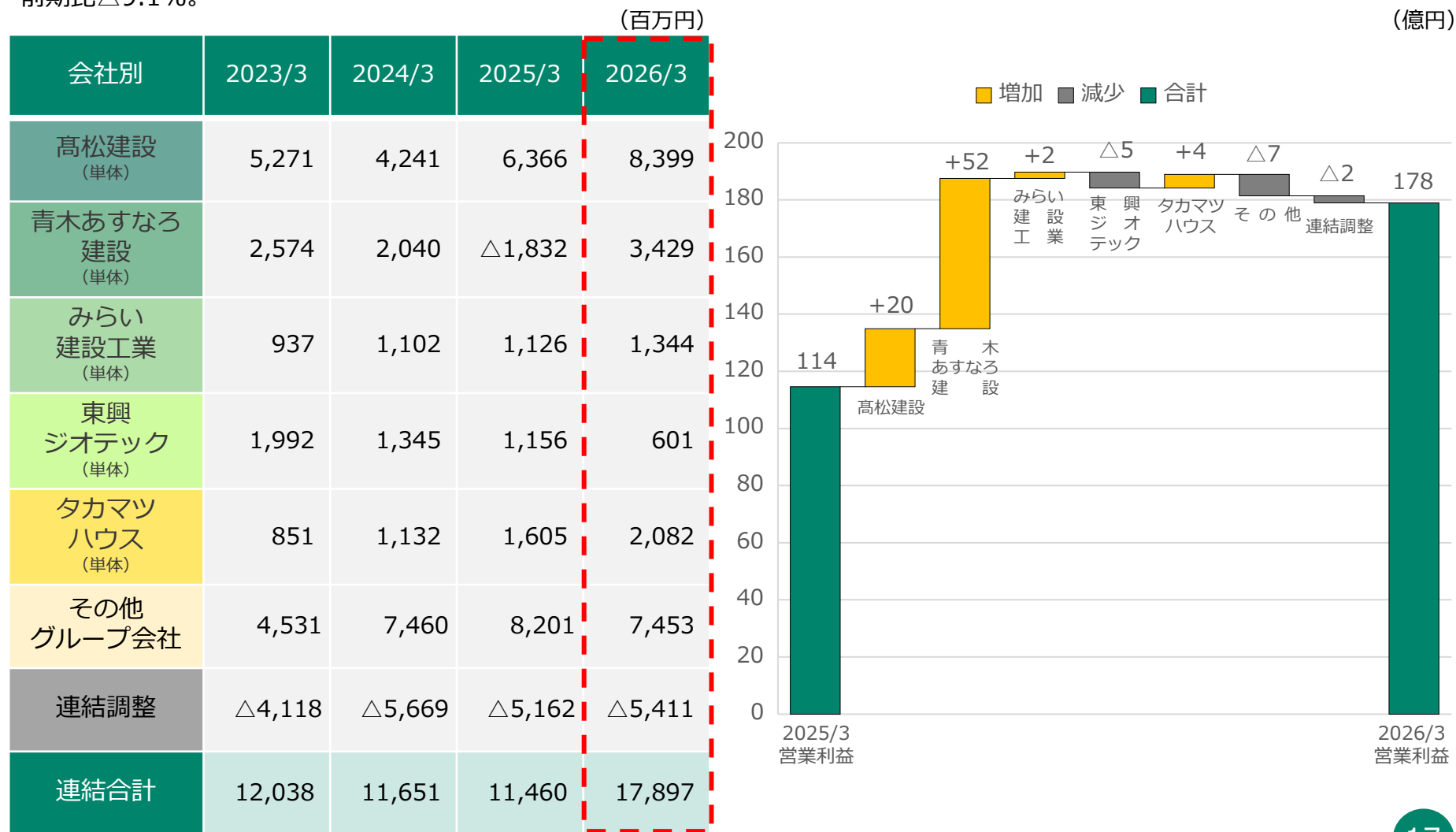


※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2026 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

中核事業会社別 営業利益

- ◆ 高松建設は売上高・売上総利益額の増加、売上総利益率の上昇により前期比+31.9%大幅増。青木あすなる建設は不採算案件のあった前期から回復し34億円の営業黒字となった。みらい建設工業は売上高は微減も売上総利益額は増加し前期比+19.3%と大幅増。東興ジオテックは売上高・売上総利益額の減少、売上総利益率の低下により前期比△48.0%と大幅減。タカマツハウスは在庫調整局面であった前期からの回復と販売好調により前期比+29.7%と大幅増。その他中核5社以外のグループ会社は前期比△9.1%。



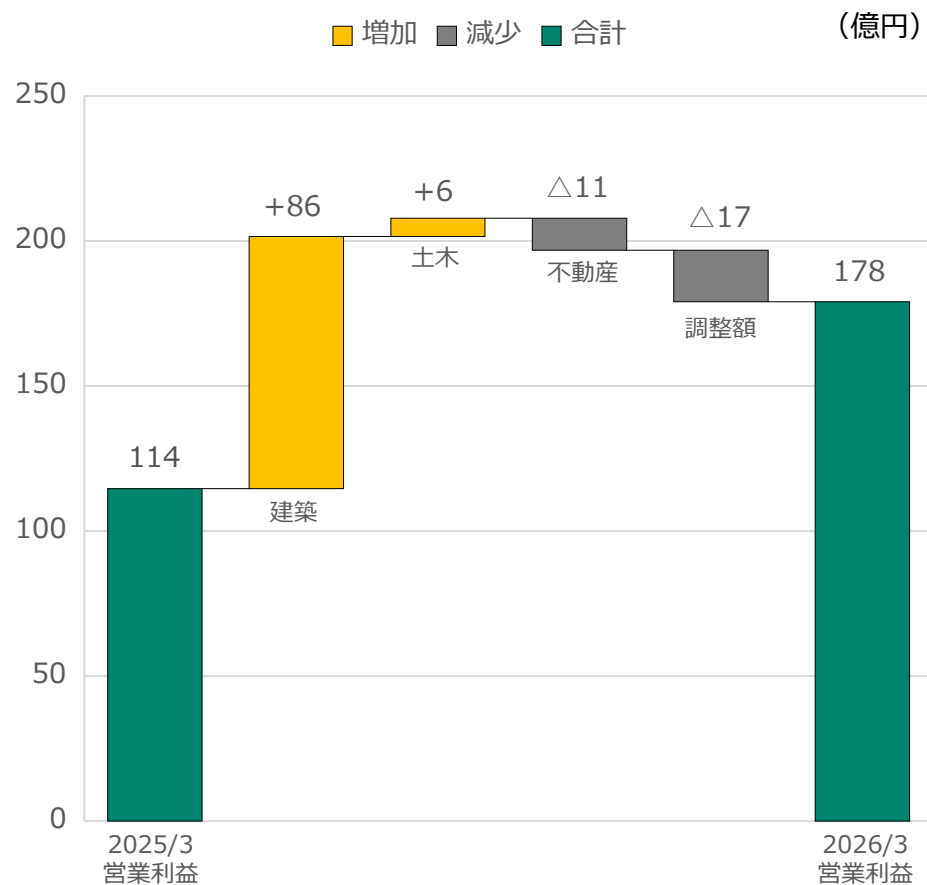
※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2026 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

セグメント別 営業利益

◆ 建築は高松建設と青木あすなる建設で大幅に増加し前期比約3倍と大幅増。土木は青木あすなる建設、みらい建設工業で増加し前期比+10.8%と増加。不動産は前期比△15.4%と減少。

セグメント別	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
建築	7,035	5,401	3,778	12,465
土木	6,702	6,861	5,876	6,514
不動産	3,761	4,253	7,188	6,084
連結調整	△5,459	△4,864	△5,383	△7,166
連結合計	12,038	11,651	11,460	17,897

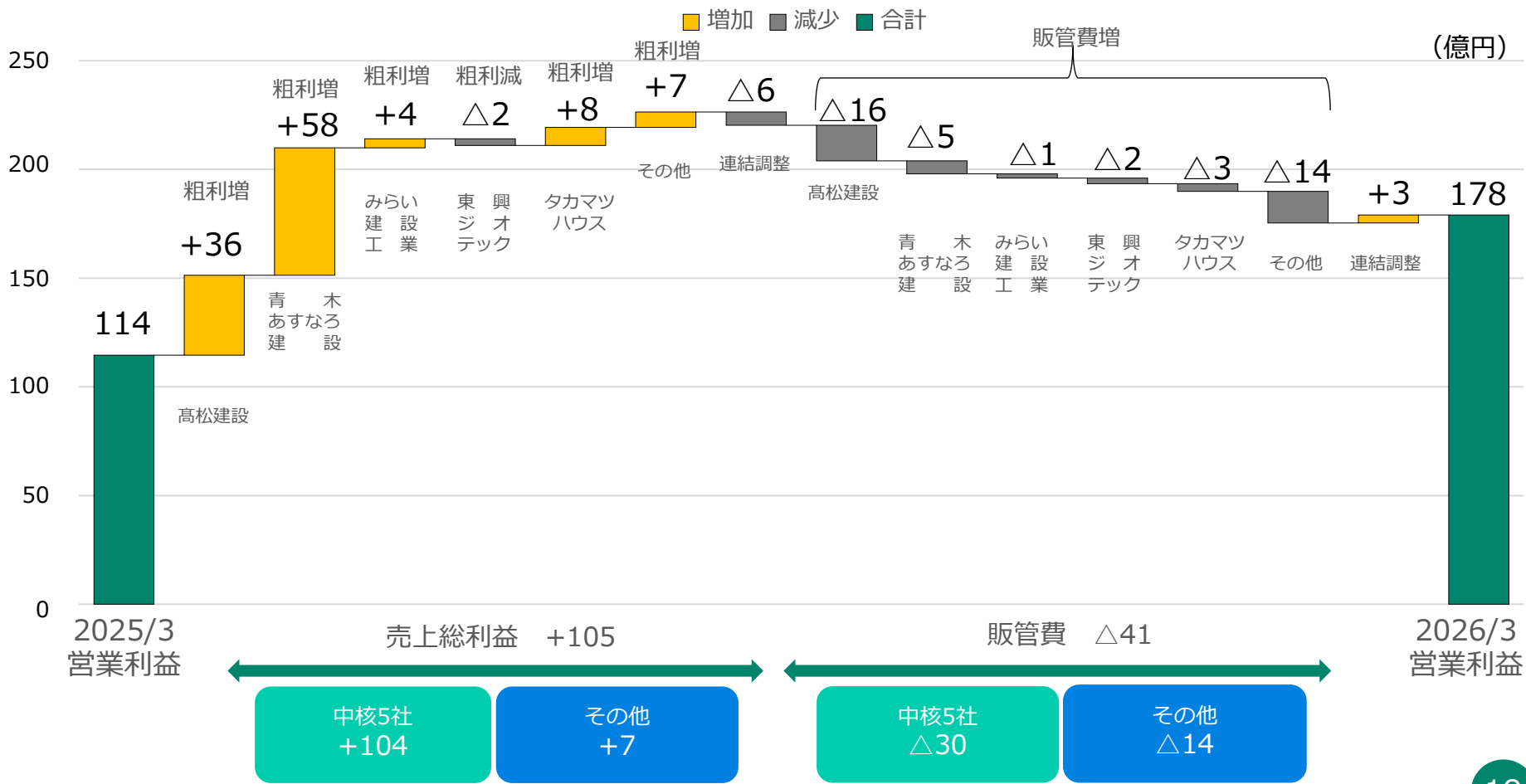


※各セグメントの数値はグループ会社間取引を含む。

売上総利益・販管費 営業利益増減分析

- ◆ 売上総利益は、東興ジオテックで減少したものの主に高松建設、青木あすなる建設で大幅に増加し、前期比105億円の大増。
- ◆ 販管費は、主に高松建設、青木あすなる建設、その他中核5社以外のグループ会社のうち主に新規設立した高松都市開発および当社高松コンストラクショングループで増加し、前期比41億円の増加。
- ◆ 営業利益は連結で64億円の大増。

営業利益増減分析

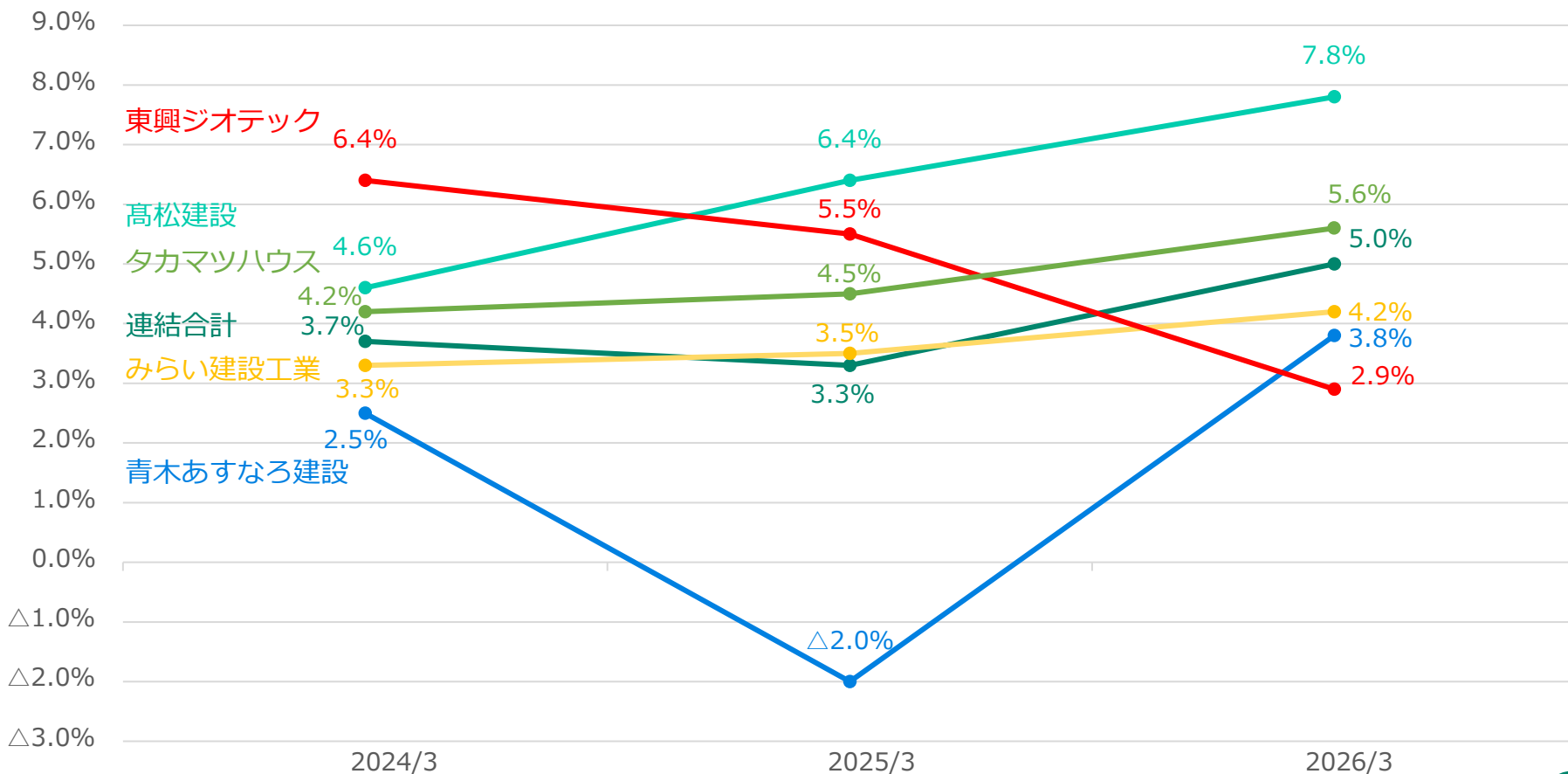


※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2026 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

連結合計と中核5社の営業利益率

- ◆ 高松建設は売上総利益率の上昇により前期比+1.4ptと上昇。
- ◆ 青木あすなろ建設は前期の営業赤字から回復し、前期比+5.8ptと大幅に上昇。
- ◆ みらい建設工業は前期比+0.7pt。
- ◆ 東興ジオテックは売上総利益率の低下により、前期比△2.6ptと大幅に低下。
- ◆ タカマツハウスは売上総利益率の上昇により前期比+1.1ptと上昇。
- ◆ 連結合計で前期比+1.7ptと大幅に上昇した。

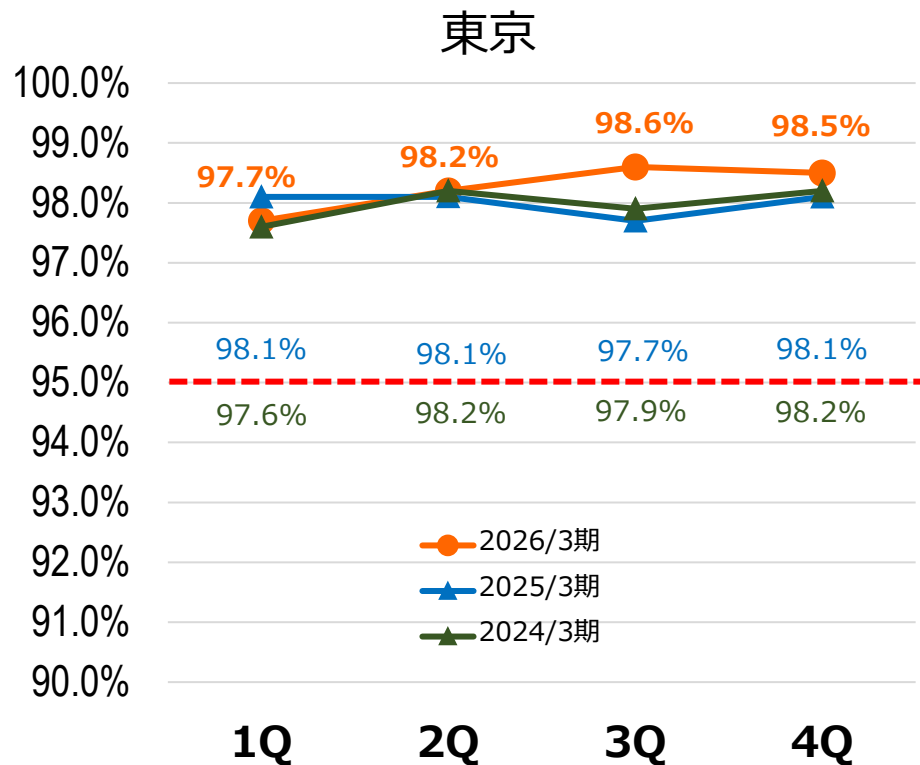
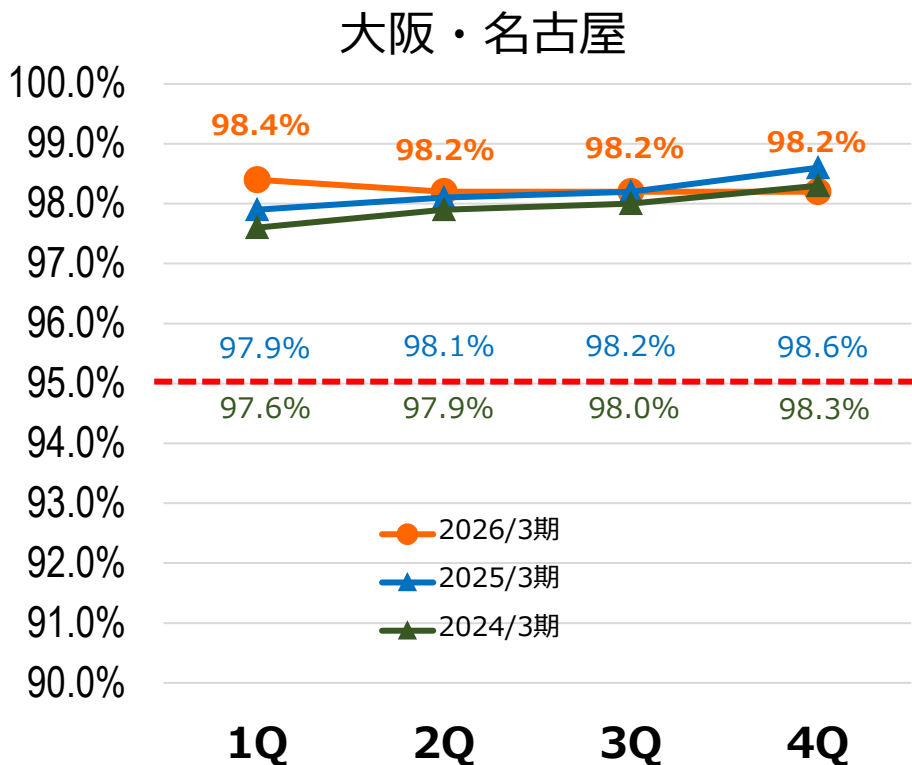


※個社の数値はグループ会社間取引を含む。

©2026 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

高松エステートにおける高松建設施工物件の入居率

◆ 入居率は26/3月期も95%以上を維持。



定義：

「大阪・名古屋」＝大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市

「東京」＝東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

「入居率」＝各四半期末時点の高松エステートが管理している高松建設施工物件の入居戸数
 ÷ 各四半期末時点の高松エステートが管理している高松建設施工物件の総戸数

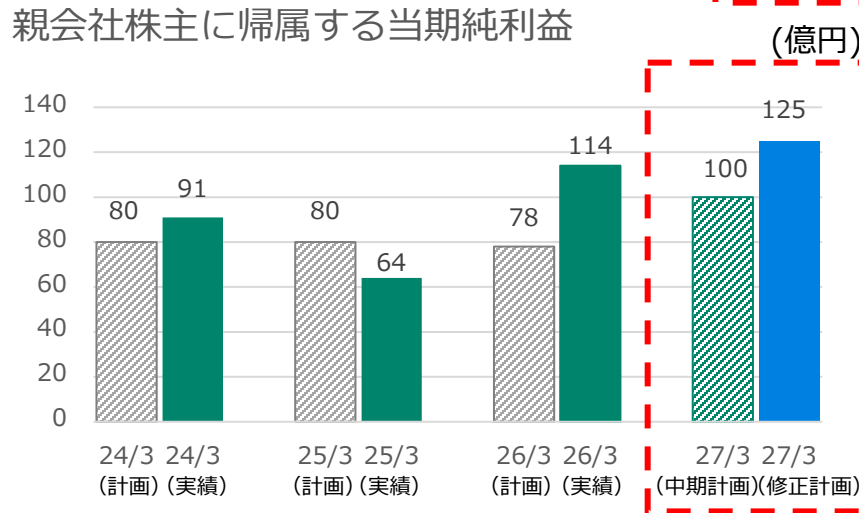
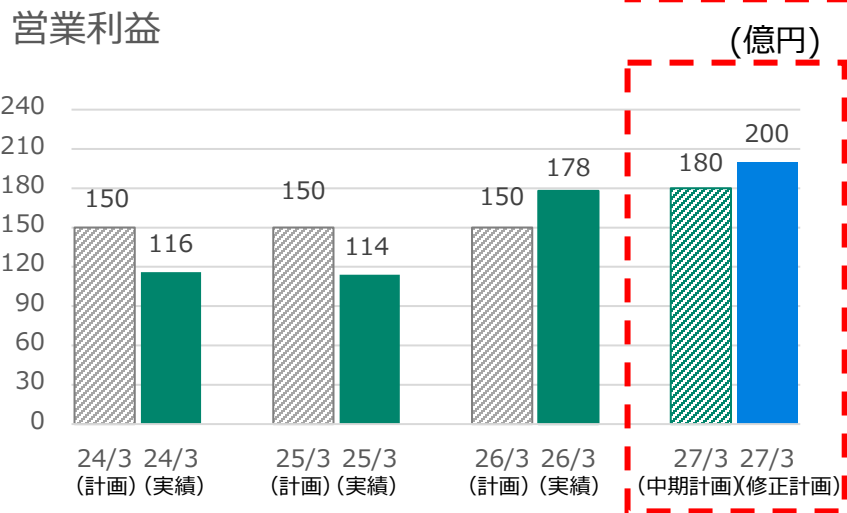
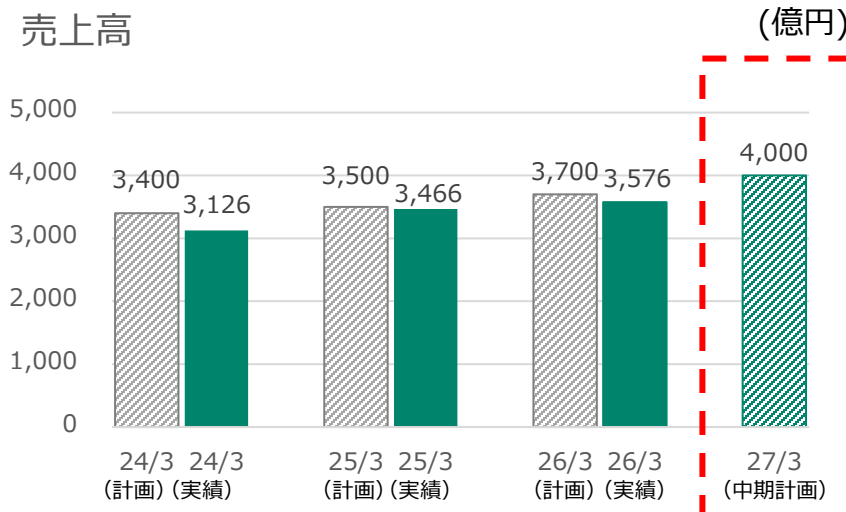
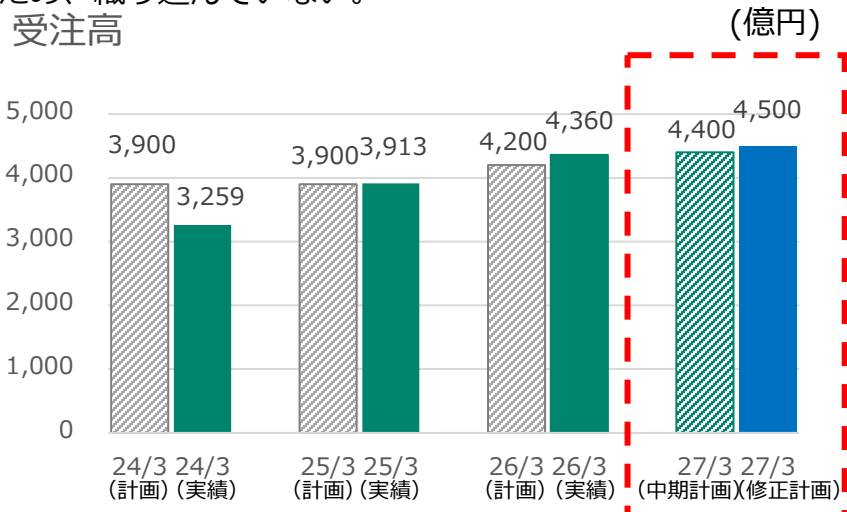
2027年3月期
業績予想・配当予想

2027年3月期 業績予想のポイント

2027年3月期 業績予想	連結	<p>2026年3月期の実績をふまえ、2027年3月期の計画数値を中期経営計画公表値から修正。 受注高+100億円、営業利益+20億円、親会社株主帰属当期純利益+25億円。 営業利益率は2026年3月期横ばいの5%を目標とする。</p>
	中核5社	<p>営業利益率に関して、高松建設は前期比ほぼ横ばい、青木あすなる建設は5.0%と前期比+1.2ptの改善を目指す。みらい建設工業は前期比△0.4ptとやや利益率が下がる計画だが、2026年3月期に好採算工事が多かった反動減を織り込んだ計画。復調を目指す東興ジオテックは2025年3月期の営業利益率5.5%を目標とする。タカマツハウスは現時点において販売は好調であり、タカマツハウスが得意とする東京23区の好立地において需要の減少は見込んでいないが、金利動向を鑑み、前期比△0.4ptとやや保守的な計画としている。</p>
株主還元		<p>中期経営計画（2026年3月期～2028年3月期）の対象年度においては、累進配当を基本方針とし、配当性向40%を目安としている。 2027年3月期の配当金額は、1株当たり144円、配当性向40.1%を予定。</p>

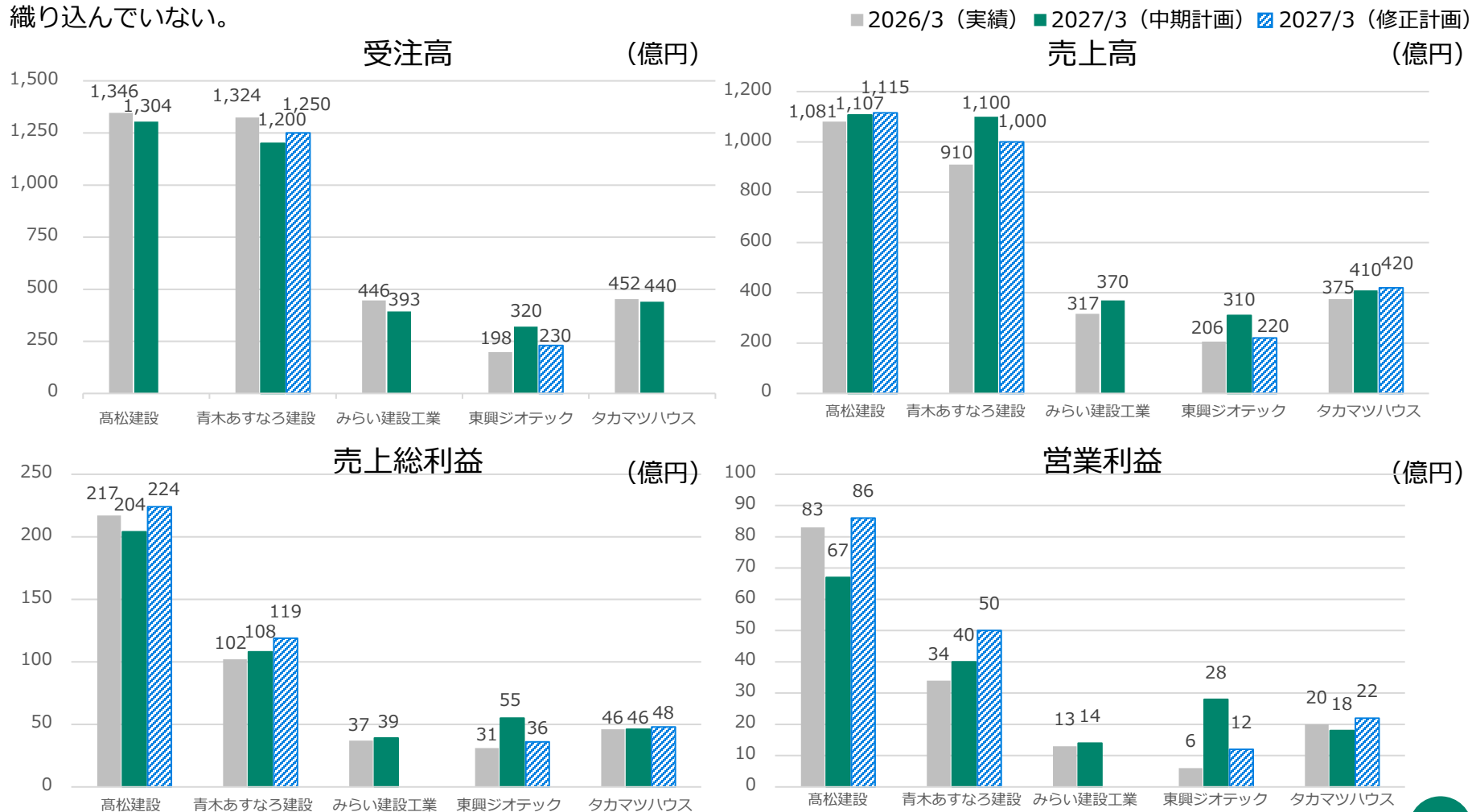
2027年3月期 業績予想

- ◆ 2026年3月期の実績をふまえ、2027年3月期の計画を中期経営計画公表値から修正し、受注高+100億円、営業利益+20億円、親会社株主帰属当期純利益+25億円とした。
- ◆ なお、本業績予想は直近の中東情勢緊迫化を受けた原油価格高騰などの影響については、現時点で先行きが不透明な状況のため、織り込んでいない。



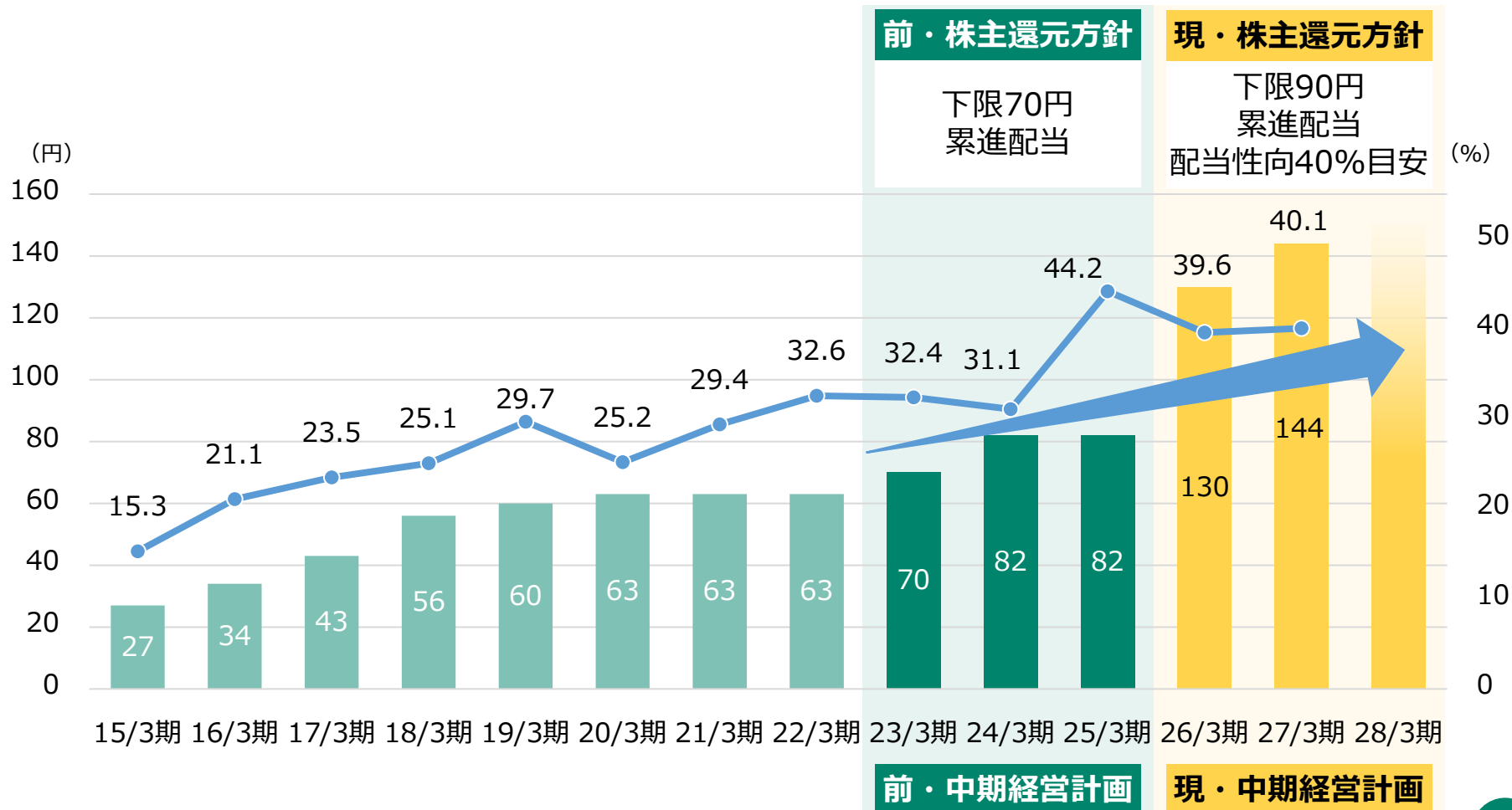
中核事業会社別2026年3月期実績・2027年3月期経営計画

- ◆ 2026年3月期の実績をふまえ、2027年3月期の事業会社の年度経営計画を中期経営計画から修正。中期経営計画から、高松建設は売上高+8億円、売上総利益+20億円、営業利益+19億円、青木あすなる建設は受注高+50億円、売上高△100億円、売上総利益+11億円、営業利益+10億円、東興ジオテックは受注高および売上高△90億円、売上総利益△19億円、営業利益△16億円、タカマツハウスは売上高+10億円、売上総利益+2億円、営業利益+4億円とした。
- ◆ なお、本計画には直近の中東情勢緊迫化を受けた原油価格高騰などの影響については、現時点で先行きが不透明な状況のため、織り込んでいない。



2027年3月期 配当予想（配当額・配当性向）

- ◆ 中期経営計画（2026年3月期～2028年3月期）の対象年度においては、**累進配当**を基本方針とし、年間の1株当たり配当金額の**下限を90円**に設定。
- ◆ **配当性向40%を目安**とし、業績に連動した利益還元をおこなう。
- ◆ 2027年3月期の配当金額は1株当たり144円、配当性向は40.1%を予定。

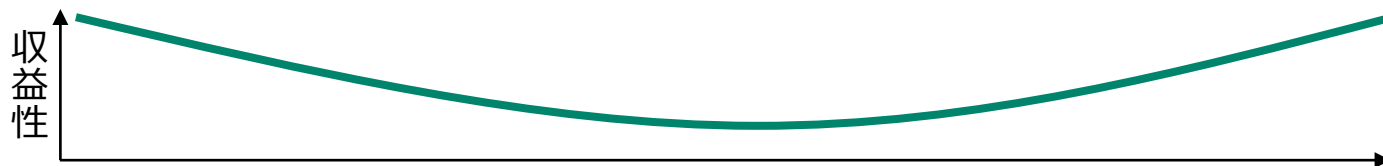


トピックス

事業成長—川上・川下領域の展開と新たな事業領域の開拓

建設業・不動産業のバリューチェーンにおいて、現在の重心である「建設請負」は伸ばしつつより収益性の高い川上・川下へと事業領域の展開を中期経営計画で掲げました。今期は不動産開発を担う高松都市開発の設立などの施策を実行し、どの領域においても増収増益を達成いたしました。

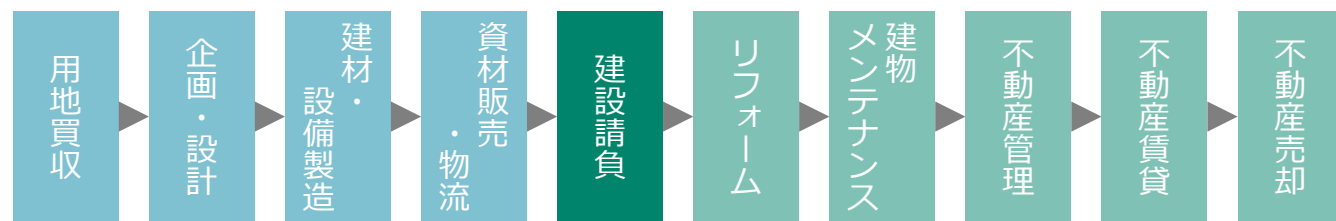
価値領域ごとの収益性



ソリューション提供型企业への脱皮 ◀ 現在の重心 ▶ ストックビジネスの実現

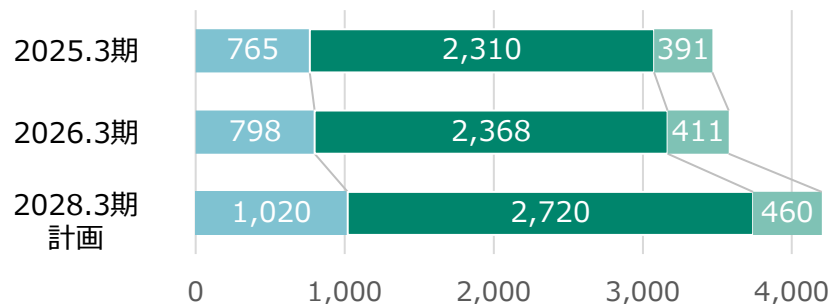


バリューチェーン



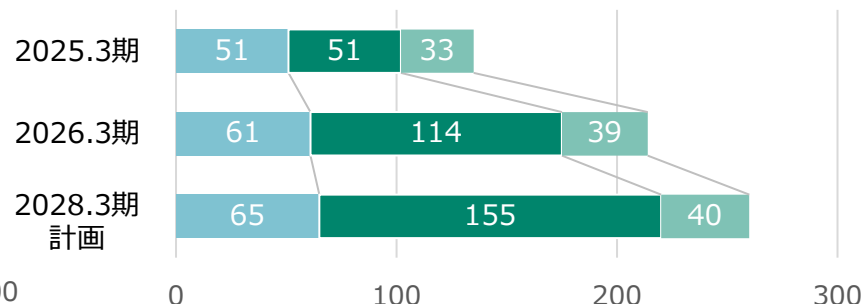
売上高 (億円)

■ 川上領域 ■ 建設請負 ■ 川下領域



営業利益 (億円)

■ 川上領域 ■ 建設請負 ■ 川下領域



※各報告セグメントに帰属しない一般管理費等およびその他の調整額は含まれない。

事業成長一川上・川下領域の展開と新たな事業領域の開拓<トピックス>

◆ 高松都市開発

2025年7月に新たな事業領域への展開を推進する取り組みとして、不動産開発事業を進めることを主な目的として同社を設立いたしました。

高松建設より移管した分譲マンション事業を継承しつつ、収益性の高い麻布・赤坂・青山などのエリアで、高級サービスアパートメント等への継続的な建設投資をおこない、不動産開発事業を通じたグループ全体の収益拡大を目指します。



▲分譲マンションブランド「TISSAGE」

◆ Takamatsu Construction Group USA

2025年12月、東海岸では初の不動産開発案件となるタウンハウス型分譲プロジェクトへ現地パートナーとともに共同出資し、参画しました。本案件は2027年夏の竣工後、短期での売却による収益回収を想定。従来のニューヨークやカリフォルニアでおこなってきた長期保有型投資とは異なる性質をもたせることで、収益機会の拡大とリスク分散を両立。今後も米国内主要都市をターゲットに、地域特性や市場動向をとらえつつ、事業基盤の拡充を進めてまいります。



▲ノースカロライナ「Elm Hill Townhouse」

◆ Takamatsu Philippine Corporation設立

2026年5月に高松建設の子会社としてフィリピンで現地法人を設立いたしました。高松建設の強みを活かした建築事業のさらなる展開を目指し、まずは現地パートナーとともに不動産開発事業に取り組んでまいります。



TakaMatsu

TAKAMATSU PHILIPPINE

会社名	Takamatsu Philippine Corporation
設立	2026年5月4日
所在地	フィリピン マニラ マカティ市 GT Tower International
資本金	1億5,000万ペソ（高松建設100%出資）
代表取締役	高鶴 仁志

事業成長—川上・川下領域の展開と新たな事業領域の開拓<トピックス>

◆タカマツハウス ～厳選立地戦略と最上位ブランドによる成長加速～

首都圏で資産性の高い土地を厳選して仕入れ、その土地に相応しい住まいを供給することで急成長を実現。2019年の設立から7年で売上375億円、営業利益20億円を達成。2026年3月期から「稀立地（マレリッチ）」という名称で、同社が扱う物件の中でも特に稀少性が高い立地の物件を位置づけました。その稀立地に相応しい建物として、最上位分譲戸建ブランド「グランミラクラス」を展開。都心居住の新たなスタンダードを提示し、更なる成長をはかります。



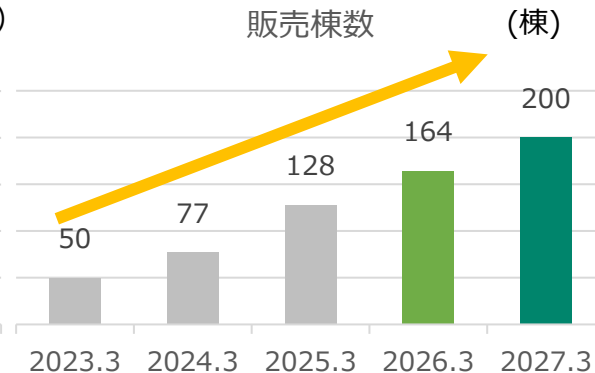
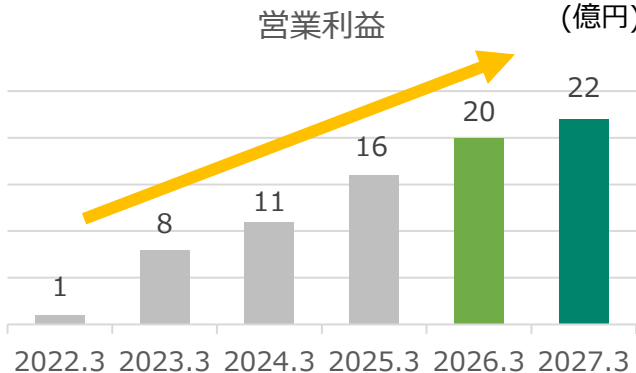
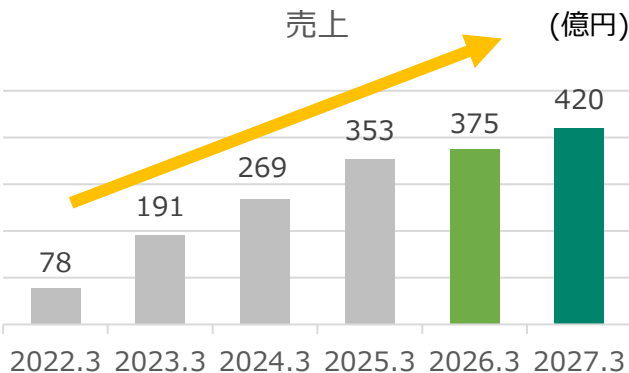
▲グランミラクラス自由が丘Ⅱ /
グランミラクラス供給数13棟（2026年3月時点）



概要（※1）	ミラクラス	グランミラクラス
価格帯	6千万円～（平均1億円）	2億円～
エリア	一都3県 （東京23区6割）	東京プライムエリア （自由が丘、千代田区六番町、 南麻布、豊島区目白、代々木など）
立地	駅徒歩5～15分程度	稀立地（※2）

※1 物件により記載の条件に当てはまらない場合もあります

※2 限られた供給に対し圧倒的な需要のある稀少性・利便性・住環境を兼ね備えた場所



事業成長—中核事業会社重点施策〈トピックス〉

◆ 高松建設

「ジオタワー大阪十三」竣工

大阪市が実施した「もと淀川区役所跡地等活用事業」において、阪急阪神不動産株式会社とともに2020年6月に事業者として選定され、2022年8月に工事を開始、2026年4月に竣工いたしました。本事業地は、阪急電鉄の主要3線が交差する十三駅至近に位置し、同駅を起点とした新線「なにわ筋連絡線」「新大阪連絡線」の整備が検討されています。これにより十三エリアは将来的に京都・大阪・神戸エリアの要となり、その重要性が高まることが見込まれます。本事業は、集合住宅、図書館、保育・学童施設、商業施設、学校等で構成される複合開発であり、高い交通利便性を活かしながら地域の新たな発展とにぎわいの創出に貢献することが想定されます。大阪本社に近接する事業地で、十三エリアの魅力向上と持続的な成長を支える建設事業となりました。



名称	ジオタワー大阪十三
所在地	大阪市淀川区十三東 1丁目 21-3 (ほか (地番)) 大阪府大阪市淀川区十三東1丁目18-14
アクセス	阪急電鉄神戸線・宝塚線・京都線「十三」駅 徒歩 3 分
事業主	阪急阪神不動産株式会社、高松建設株式会社
設計	鹿島建設株式会社、株式会社類設計室
施工	鹿島・高松共同企業体
用途	共同住宅(分譲712戸)、店舗、市立図書館、 学校、図書館、郵便局、保育・学童施設、など
敷地面積	7,274.86㎡
構造・規模	鉄筋コンクリート造、一部 鉄骨造 地上39 階、地下1階

事業成長—中核事業会社重点施策〈トピックス〉

◆ 青木あすなる建設、高松建設、みらい建設工業

「京田辺データセンター 第1期工事（DC1-1 C&S工事）」の受注

当社グループは、中期経営計画における重点施策「事業成長に向けた新たな事業領域の開拓」に基づき、かねてより注力してまいりましたデータセンター建設工事を受注いたしました。

本案件は、グローバルデータセンター事業者の出資による、日本初進出のハイパースケール型データセンタープロジェクトの第1期工事です。施工にあたっては、青木あすなる建設・高松建設・みらい建設工業によるJV（共同企業体）を編成。建築工事を青木あすなる建設と高松建設が、開発工事（造成等）をみらい建設工業が担当いたします。本プロジェクトは、グループ各社の専門性を結集し、シナジーを最大限に活かした取り組みとなります。今後も社会・経済の変化に伴う多様な建設需要に応えるべく、グループ一丸となって取り組んでまいります。



名称	京田辺データセンター（DC1-1）
建物用途	データセンター
所在地	京都府京田辺市多々良西平川原39-16の一部
工期	2026年2月3日～2028年3月31日
発注者	グローバル データセンター事業者
建築・開発 JV構成	青木あすなる建設、高松建設、みらい建設工業
設計	ゲンスラー・アンド・アソシエイツ・インターナショナル・リミテッド、NTTファシリティーズ他
請負金額	158億円（設備・内装工事は別途）
敷地面積	34,447㎡
構造・規模	鉄骨造、一部RC造（基礎免震構造） DC棟：地上3階PH2階 発電機棟：地上3階 建築面積：8,041.07㎡ 延床面積：23,147㎡

事業成長—中核事業会社重点施策〈トピックス〉

◆ 青木あすなる建設

大型物流・冷凍冷蔵倉庫「（仮称）LOGI'Q広島新築工事」受注

中期経営計画で「事業成長」に向けた重点施策の1つ「新たな事業領域の開拓」において、青木あすなる建設で重点施策に掲げ、強化・推進してまいりました、冷凍冷蔵倉庫付きの物流施設を受注いたしました。

冷凍冷蔵倉庫を備える物流施設は、共働き世帯の増加やインターネットスーパーの普及といった働き方や暮らし方の変化に伴い、需要の高まりが見込まれる領域です。今後もこうした社会や経済の変化に応じた多様な建設需要に応えるべく、グループ全社で取り組んでまいります。



名称	（仮称）LOGI'Q広島
建物用途	物流施設 （1～2階冷凍冷蔵倉庫、 3～5階ドライ倉庫）
所在地	広島県広島市中区江波沖町 1588-4
工期	2026年5月～2028年4月
発注者	東急不動産株式会社
JV構成	青木あすなる建設・大之木建設
設計	青木あすなる建設
請負金額	207.5億円（JV全体）
構造・規模	S造5階
敷地面積	31,019㎡
延床面積	77,365㎡

組織経営－非財務目標

◆ 高松コンストラクショングループ

中期経営計画－サステナビリティ目標進捗

当社では、多様な社員がやりがいをもって継続的に活躍できるよう、2025年5月に発表した中期経営計画で以下の目標を掲げました。2026年3月期は、一項目を除き、目標・実績に対して上回る結果となりました。来期、再来期も、積極的な活動を通して目標の達成に向け、邁進してまいります。

ダイバーシティ推進の取り組み 海外人財の採用を積極的に行う青木あすなる建設では、海外人財を対象とした交流会・研修の実施や、受け入れ側に対する意識啓発を進めることにより、2年連続で離職率0%を達成しています。当社グループ全体では、次世代女性リーダー育成プログラムの継続的な実施、本部長クラス115名を対象としたイクボス研修や男性育休取得支援宣言(社内公表)を行うなど、取り組みを進めると同時に、誰もが働きやすい職場の可視化にも力を入れております。

エンゲージメント 当社では、中期経営計画の展開、タウンホールミーティングの実施、およびグループパーパスの策定・浸透を推進し、当社グループとしての一体感醸成や経営層との信頼関係の醸成を図りました。事業会社単位では、独自の長期ビジョンやパーパスの策定・展開、および期首・期央会議等での会社方針の分かりやすい説明が行われ、各社固有の課題への取り組みが進められました。

健康経営 2026年3月期よりグループ全体で健康経営に取り組み、健康リテラシー向上を目的としたメンタルヘルス研修や運動習慣促進施策等を実施しました。グループで5社が健康経営優良法人認定を取得。2027年3月期は認定取得拡大に向け推進してまいります。

項目	指標	2025/3期 (実績)	2026/3期 (目標)	2026/3期 (実績)	2027/3期 (目標)	2028/3期 (目標)
ダイバーシティ 推進	①海外人財在籍者数	①64名	①70名	①95名	①110名※	①130名※
	②女性管理職比率	②3.5%	②4.1%	②4.1%	②4.7%	②5.3%
	③男性育休取得率	③47.0%	③50.0%	③61.5%	③65.0%※	③70.0%※
エンゲージメント	エンゲージメントスコア	46.8	48.0	48.9	50.0※	51.0
働き方改革	有給休暇取得率	61.3%	70.0%	62.1%	70.0%	70.0%
健康経営	健康優良法人取得社数	3社	5社	5社	8社	10社

※表内太字・下線で記載の目標値は26年3月期の結果を基に上方修正した数値です。

つながる力を、創り出す力に。



本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。